

2023-01

THE

#1

# 邪馬壹国歴史研究会 会報誌



会員募集中!

FACEBOOKのグループ  
以外にも勉強会を行っ  
ています。

初回発行 2023-01

不定期発行

歴史は正しく解釈すべきである



2018年シンポジウム時

## 邪馬壹国シンポジウム IN 行橋

令和5年度は、下記の通り行います

日時 2023年5月13日(土)  
開場 13:30 開始 14:00  
場所 リブリオ行橋 けやきホール  
定員 100名  
会費 1,000円  
連絡先 0930-31-0554(いげた)

邪馬壹国歴史研究会  
〒824-0008  
福岡県行橋市宮市町1-28  
すえまつ興産駅前ビル3F  
特定非営利活動法人  
クリエイティブ・スローライフ

発刊責任者 井下田清智  
☎ 0930-31-0554

歴史は正しく解釈すべきである

今回は九州東岸にあった失われた港のお話です

# かや の つ 行橋市草野津は 倭の不弥国の港

## 2021年 公益社団法人行橋法人会が草野津 の看板を行橋市長峽川沿いに設置する 九州から瀬戸内海への重要な交通路

国道201号線を田川市から仲哀トンネルを抜けて行橋市内に向かう途中、延永小学校の手前を左折して、長峽川沿いに約100m行くと、小さな公園に行き当たる。そこに行橋法人会が設置した草野津の看板がある。現在の行橋市街地は当時は大きな湾になっており、平安時代あたりまではこの港を使っていた。その後川が運ぶ土砂で使用不能となり、今井津に機能が移っていく。

この周辺の延永ヤヨミ園遺跡で日本中でも出土例が少ない木樋や墨書土器、港湾施設が出土しており、古代では重要な港湾であったことがうかがえる。

また港は湾の北岸に位置しており、不弥国から投馬国や邪馬壹国に海路を南進する記述が魏志倭人伝にみられるが、その条件に符合する場所でもある。

お隣の荻田町にある石塚山古墳からは、卑弥呼時代の三角縁神獣鏡が出土しており、現存する7枚の鏡は、宇原神社が所有して



いる。同範鏡が宇佐にある赤塚古墳や岡山県、奈良県でも出土しており、古代の人々の海を通じたネットワークの広さに驚かされる。

日本書紀、景行記に出てくる長峽県(ながおのあがた)もこの辺りである。景行天皇が仮宮を置いたとする不弥国の中心は、長峽川の上流部にあったと思われる。

歴史は正しく解釈すべきである

## 不弥国について

当研究会では、魏より送られた使者の九州上陸地点を宗像、田熊石畑遺跡周辺と考えている。その場所こそが末盧国だ。そこから500里(約40キロメートル)東南に行くと伊都国に到る。田川市伊田付近を中心としたところ。そこから東に百里(約8キロメートル)で不弥国に行き着くことになる。仲哀峠を越えたところから不弥国が始まる。延永ヤヨミ園遺跡北側が草野津。不弥国の人口は千数百家である。邪馬壹国連合で使われる戸という単位が使用されていない。このように家という単位が使われているのがもう1ヶ所、一大国がそうである。魏国の制度では、戸も家も違いはないよう



だが、倭人伝の短い文脈のなかでの混在は、何かを示唆しているように思われる。不弥国は、倭国を構成する国ではあったが、近隣国とは異なる政治体制となっていたのではないだろうか。

(写真提供:行橋市教育委員会)

## 邪馬壹国シンポジウム



今回は、徳島県から阿波古事記研究会の三村さん、そして徳島市商工会議所青年部会のみなさんをお呼びしています。

徳島県では県を挙げて「邪馬壹国は阿波だった」という活動を行っており、それがまちづくりにも一役かかっていました。

写真は、昨年10月に徳島県美馬市で開催された第4回やまと全国大会の一場面です。この「やまと」は「邪馬壹」の読み方であり、全国の邪馬壹国研究会のコンセプトとなっています。行橋でのシンポジウムをお楽しみ下さい。

歴史は正しく解釈すべきである

## 神社・旧跡探訪 —石塚山古墳—



苅田町にある石塚山古墳、昨年11月、行橋法人会が史跡案内看板を刷新、非常に分かりやすい史跡案内看板となっています。写真は11月3日に行われた除幕式の一場面です。

### 会員募集

クリエイティブ・スローライフでは、様々な活動を通して社会に貢献しています。みなさんも当法人の会員となって、活動の幅を広げてみませんか。邪馬壹国歴史研究会以外にも、以下のような活動を行っています。

- ・京築連帯アメニティ都市圏推進会議  
観光振興部会員
- ・福岡県美いまちづくり協議会会員
- ・行橋市観光協会会員

年会費 10,000円

事務局で会員証を発行しています。営業時間は、火曜日から金曜日の9時から18時まで。お気軽にお立ち寄りください。

石塚山古墳が築かれた年代は、卑弥呼の晩年(西暦247年)から宗女の壹与(とよ)が女王の座を受け継いだ頃とされています。全長が130mと、この時代としては国内屈指の大きさです。

また古墳の形式が、前方後円墳ということ、宇佐赤塚古墳と同時代に豊国の南北で同様な前方後円墳が出現したことには、重大な意味が隠されていると考えられますが、今後の当研究会のテーマとして、取り組んでいきたいと考えています。

邪馬壹国連合と大和王権との関係について、石塚山古墳の謎を解くことで、具体的な流れが見えてくるのではないのでしょうか。

出土品からは甲や鍬などが見付かっています。当時の政治と権力についての手がかりとも考えられます。

次回は、箕島を訪ねてみます。

### 企業協賛

- ・デジタルステージ有限会社

### あとかぎ

新型コロナウイルス感染症も第8派に入って落ち着いてきており、生活を元に戻そうという方向に向かってきています。行橋市でのシンポジウム開催前に、インフルエンザと同等の5類に分類されるだろうと報道されています。このことを踏まえて、令和5年度は、3年間中断していた京築地域にてもシンポジウムを開催し、これまでに得ることができた知見を共有していきたいと考えています。